

EVENT REPORT

若手医師グループが研修医たちをナビゲート！

「平成29年度 研修医ワークショップinKYOTO」を開催

● 2月4日(日) ● 京都府医師会館

アタマとカラダをフルに使って楽しみ学ぶ「研修医ワークショップin KYOTO」。「明日からの当直で必ず役立つ!」をテーマに、まず、若手医師グループによるパネルクイズやハンズオンを提供。これまで研修医として参加してきた経験を生かして、当日まで幾度となく意見を交わし、ブラッシュアップを重ねてきたものです。続いて行われたのは、熊本赤十字病院救急部の医師で京都府立医科大学救急医療学教室客員講師である加藤陽一先生の指導のもと、熊本の震災に学ぶ災害机上訓練。災害時の現場では、救急医だけでなくすべての医師が携わる必要があることを疑似体験しました。

今回は、大阪や熊本など他府県からも集まった約30名が参加。仲間でありライバルでもある他施設の研修医たちがチームを組み、課題に挑戦することで、お互いにどんな研修を行い、どんな実力を持っているのかを感じ合えたのではないのでしょうか。



参加者の声

- ◆ 救急ローテーション未経験で分からないことも多かったが、こういった知識が問われるのだと知って今後の目標ができた。
- ◆ 災害の答えのない問題に直面し慌ててしまったが、他の人の助けで色々なアイデアが浮かび、よかった。
- ◆ 他病院の研修医の方と交流できて楽しかった。また自分の実力の立ち位置を垣間見ることができた。
- ◆ 災害机上訓練は普段だと考えないようなことを色々考え、とても勉強になった。
- ◆ とても良かった。やはり楽しいという事が重要だと感じた。飽きない時間も良かった。



京都府医師会では本誌の定期的な発刊を予定しており、次号は7月に発刊致します。掲載内容向上のために、本誌に関するご意見・ご要望をお寄せください！また、研修医・編集委員を募集しています。編集に携わってみたい先生がおられましたら、事務局までご連絡ください。

ご意見・ご要望、編集委員の応募はこちら



「Arzt」:ドイツ語で「医者」を意味する言葉から本誌のタイトルを取りました。



一般社団法人 京都府医師会
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東梅尾町6
TEL.075-354-6104 FAX.075-354-6074
<http://www.kyoto.med.or.jp/>

研修医・若手医師のための情報誌『アルツト』 Arzt Vol.04 2018年4月7日発行 発行人 一般社団法人京都府医師会 制作 アルツト編集部

一般社団法人 京都府医師会



研修医REAL SPECIAL EDITION

京都府北部ならではの結束力 意欲と熱意と一体感をもって臨床の現場を学ぶ

EVENT REPORT

「第13回 京都府北部研修医ネットワーク」を開催 「平成29年度 研修医ワークショップinKYOTO」を開催

京都府北部ならではの結束力 意欲と熱意と一体感をもって 臨床の現場を学ぶ

勉強の機会や研修医同士の交流も少ないと思われがちな北部エリア。じつは、数の少なさを逆手に取った一体感あるネットワークが、ここにはあるのです。京都府周辺部よりむしろ充実しているかもしれない勉強会の様子など、北部の病院で研修医生活を送る4人の先生方に語っていただきました。

研修医生活には勉強会で刺激を与える

菌部 北部エリアの病院は、たぶんどこも同じだと思いますが、研修医仲間が少ないという話をよく耳にします。

石丸 僕のところには2年目の研修医がいなくて、1年目2人で楽しくやっています。人数が少ないぶん、濃い信頼関係を築けているなど実感しています。

中村 少数精鋭の仲間が近くにいて頑張っていますが、他の病院の同期はどうなんだろうと気になります。そこで、他病院の研修医と定期的に交流の場をもつことで、現在の自分の立ち位置を確かめたり、自分の将来を見つめたりしていこうというのが、この北部研修医ネットワークなんです。

渡邊 この会は「研修医の、研修医による、研修医のための会」なのだそうですね。

中村 2008年に第1回を始められて以来、「研修医たちの自主的な勉強会が必要なんや」という熱意が受け継がれてきました。こういったモチベーションが上がるイベントが定期的にあるのは、北部エリアの大きいメリットだと思います。今回は福知山市民病院の主催で、他の病院の先生にプレゼンするので準備は大変でしたが、それぞれの症例に対しての理解が深まったのではと思います。ヨコのつながりだけでない収穫です。

菌部 普段あまり関わることのない他病院の先生方と交流できる貴重な機会ですよ。他の先生方の研修生活を知ったり、自分の病院との違いを、良いところも悪いところも忌憚なく話すこともできる。そうすることで、自分自身の普段の取り組みや将来について、考えが深まりました。

渡邊 初めての参加でしたが、普段の自分の勉強不足を痛感させられてしまいました。次回開催時には2年目になっていますし、成長できているなど実感できればいいですね。

石丸 自分に足りないことや、すべきことの方角性を確認できました。どの病院の研修にも特徴があると思うのですが、こうした勉強会で普段勉強しきれていないところを埋められたらと思います。

北部エリアもやっぱり忙しい

中村 毎日の研修医生活というのは、北部エリアだからという違いはありませんよね。起床が早くて、帰宅が遅い(笑)。忙しいのはどこの研修医も同じだと思いますが、地域の病院の数少ないスタッフで医療ニーズを満たしつつ勉強しようと思うと、仕方ない面もあります。

渡邊 確かに、あっという間に時間が過ぎる。気がついたら「もうこんな時間」ということがよくあります。

石丸 働き始めた4月頃は土日の休みが嬉しかったのですが、徐々に時間を持て余すようになって…。今では予定がなければ、わりと積極的に日直に入っています。

菌部 遊ぶ場所が少ないのは北部エリアの悩ましいところ。でも、そもそも遊ぶ時間をなかなか確保できない研修医生活なのですが(笑)。でもやはり疲れはたまるので、意識して休憩を取ることも大切ですよ。あと、ストレス解消法も。私の場合は毎日のランニングです。朝の新鮮な空気は最高ですよ。亀岡ハーフマラソンも走りました。

渡邊 大学の同期と連絡を取ったり遊んだりしているのですが、研修の様子を聞いたり愚痴を言い合ったりするのが、いちばんのストレス解消になっているかもしれません。京都市内で研修をしている同期には、私の充実した研修生活をよくうらやましがられます。



「第13回 京都府北部研修医ネットワーク」開催

● 12月9日(土) ● 市立福知山市民病院

● 参加施設：京都中部総合医療センター、綾部市立病院、京都府立医科大学附属北部医療センター、市立福知山市民病院

2008年、当時の研修医の発案で始まった「研修医の、研修医による、研修医のための研修会」は、発案者の思いを引き継ぎながら、2年間で全員が入れ替わるのが特徴。京都府北部の初期研修医の交流と卒後臨床研修の活性化をはかる目的で年1~2回のペースで行われており、今回で13回目を数えます。

1年目の研修医を中心に約30名が参加した会は、市立福知山市民病院の中村紳一郎副院長の挨拶からスタート。「チーム対抗症例クイズ大会」をアイスブレイクとして和やかな中にも空気を盛り上げ、続く「ケースカンファレンス」では救急医療をテーマに各病院から研修医の印象に残った症例が発表されました。後半は、滋賀医科大学呼吸器内科 長尾大志先生による講演「やさしい胸部レントゲン・血ガス教室」。講義だけでなく症例問題や画像問題に答える時間が多く取られ、研修医たちは熱心に耳を傾け、また発言するなど、実り多い勉強会となったようです。



主催病院の研修医は当日、進行に盛り上げ役に大活躍。



5名×3チームによる症例クイズ大会は優勝決定戦までもつれ込む熱戦ぶり。他病院の医師同士と思えないチーム力を発揮。



症例クイズは9例を準備。各チーム、活発に鑑別診断を行った。



長尾大志先生が胸部画像の見方や影を見つけるコツを伝授。



開会の挨拶で臨床研修の理念などを話す中村副院長。

京都府医師会研修医向けイベントスケジュール

平成30年度 臨床研修屋根瓦塾KYOTO

と き：平成30年7月28日(土) 午後2時~7時30分(予定) ※懇親会含む
 ところ：京都府医師会館
 参加費：無料
 プログラム(予定)：■ロールプレイ ■シミュレーションゲーム
 ■懇親会/メディカルクイズ
 対 象：1・2年目の研修医

平成30年度 研修医ワークショップ in KYOTO

と き：平成31年2月17日(日) 午後2時~7時(予定) ※懇親会含む
 ところ：京都府医師会館
 参加費：無料
 プログラム(予定)：■症例クイズ ■救急外来実技トレーニング
 ■災害医療シミュレーション ■懇親会/メディカルクイズ
 対 象：1・2年目の研修医